

～第47回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に参加しました～

専任教師 田中 綾子

フローレンス・ナイチンゲール記章の授与式が8月7日東京プリンスホテルにおいて開催され、看護学生3名と共に出席してまいりました。このナイチンゲール記章は、2年に1度赤十字国際委員会が世界各国で顕著な功績のあった看護師らに贈られます。今年は、「マギーズ東京」センター長の秋山正子さん、日本赤十字社看護師同方会理事長の竹下喜久子さんの2名が受章されました。キャンドルサービスの厳かな雰囲気が始まり、日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下御手ずから記章が授与されました。午後からは、受章者の講演がありました。秋山さんからは、「つながる、ささえる、つくりだす 地域を耕す看護の役割」についてこれまでの歩みとともにお話ししていただきました。学生は、「身近な方がつながり、チーム医療となっていた。地域で支えることができる在宅看護に興味を沸いた。」と感想を述べていました。相手に敬意を払い、相手の人生を想像していくことが大切と教えていただきました。また、竹下さんからは、「私の歩んだ道 看護と教育と赤十字」というテーマで、東日本大震災時、本社看護部長として慢性期の災害看護を確立したことや赤十字のキャリア開発ラダーに取り組んだ経験から、

管理者としての歩みについてお話しがありました。学生達は、「自分ひとりではなく、一緒に頑張ってきた周りの人に感謝をしているからこそその功績であることがわかった。」「管理者の大変さがわかった。興味を持ってこれからも頑張りたい。」と述べていました。「今の自分を育ててくれたのは、これまで出会った患者さんと、看護学生である。」との言葉は、私も感じるところでありました。

このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

